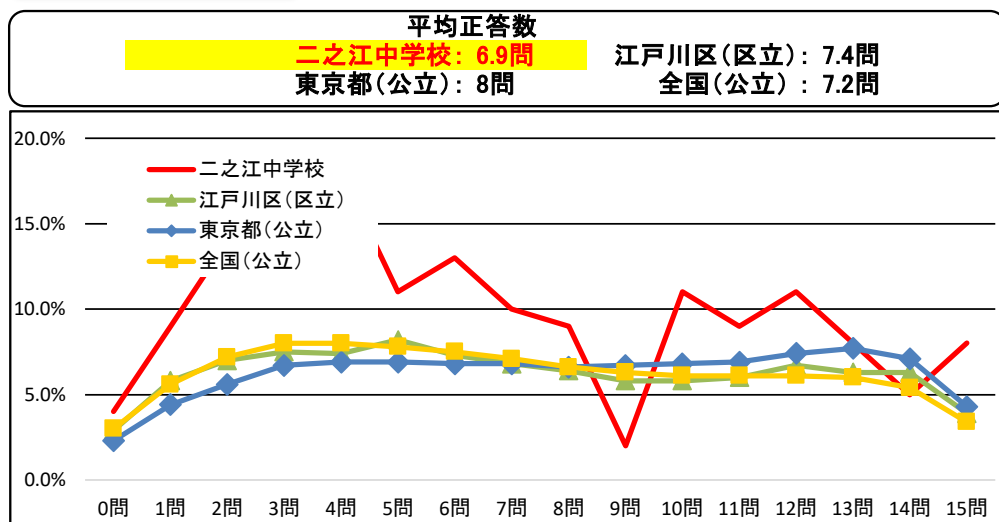


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【数学】二之江中学校

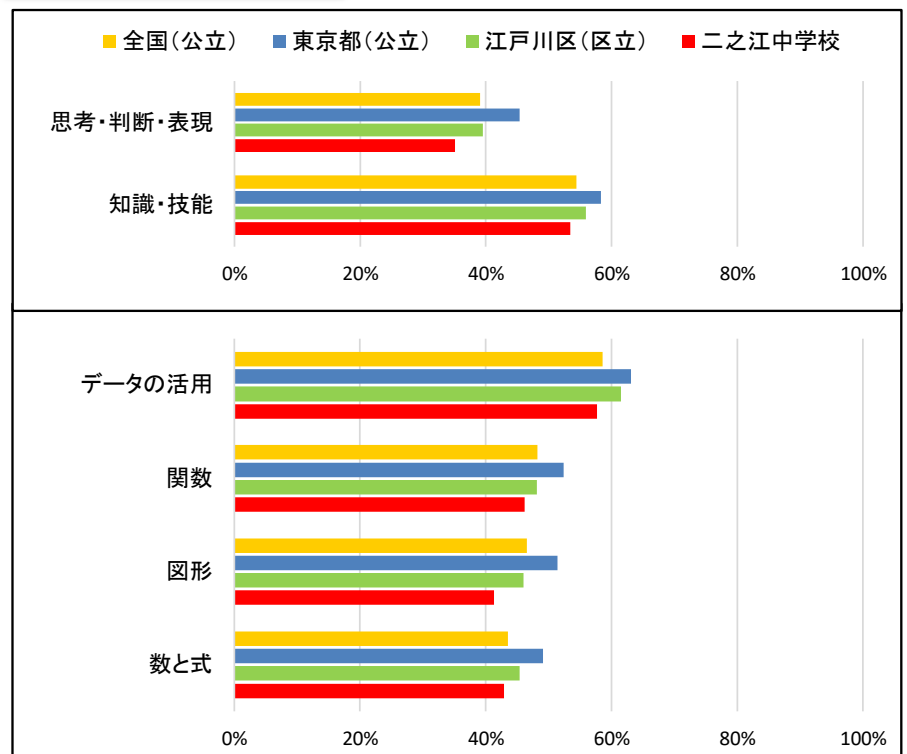
正 答 数 分 布



【平均正答率の差】

二之江中学校	46%
江戸川区(区立)	49%
東京都(公立)	53%
全国(公立)	48.3%
都との差(ポイント)	-7.0

「領域別」の結果

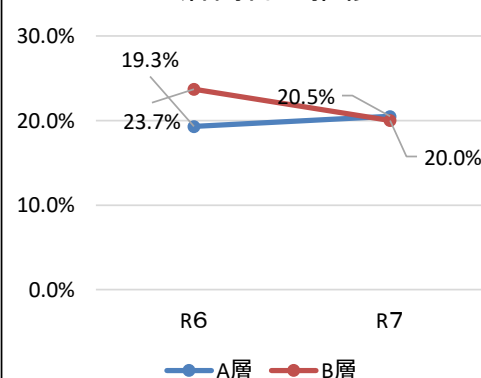


四 分 位 に お け る 割 合 (都 全 体 の 四 分 位 に よ る)

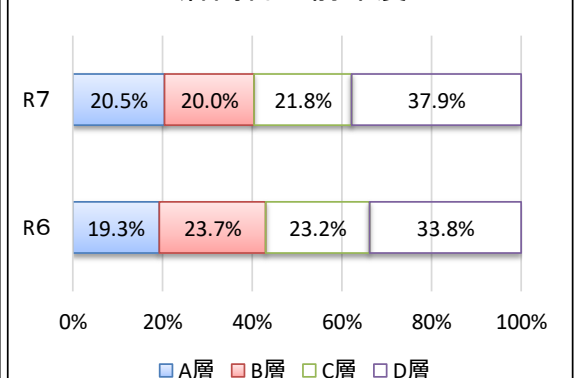
数 学	上位 ← 下位			
	A層 12～15問	B層 8～11問	C層 4～7問	D層 0～3問
二之江中学校	20.5%	20.0%	21.8%	37.9%
江戸川区(区立)	23.2%	24.0%	29.6%	23.2%
東京都(公立)	26.5%	27.0%	27.5%	19.0%
全国(公立)	20.9%	25.1%	30.2%	23.8%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

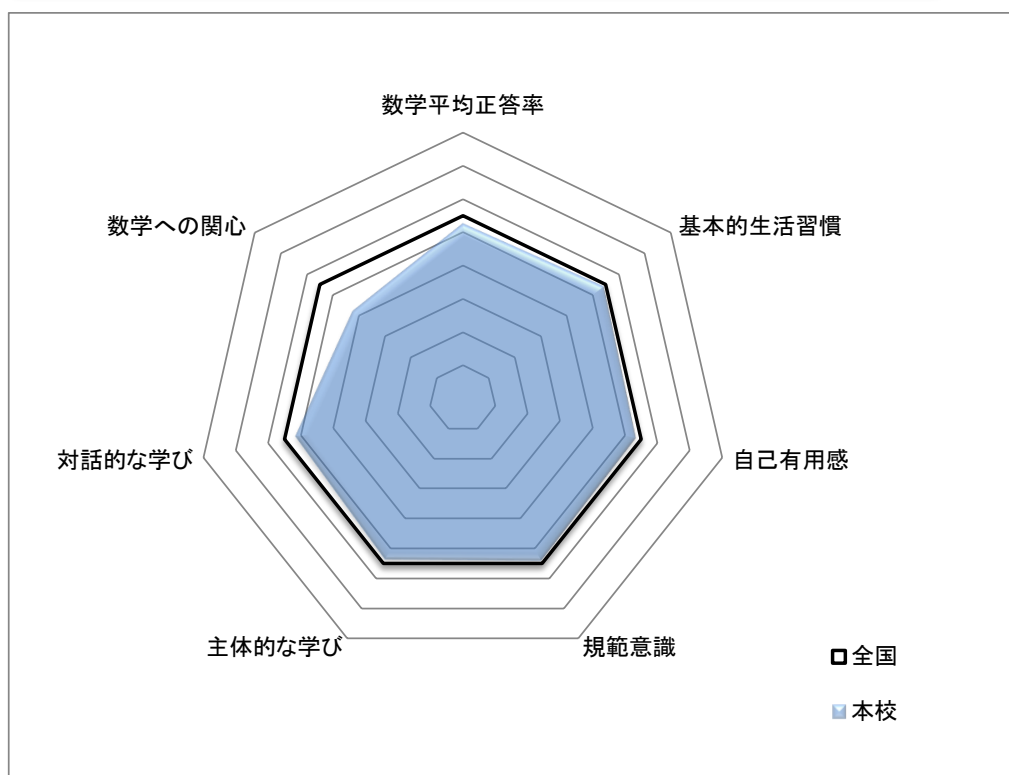
AB層割合の推移



AB層割合の前年度比



各 領 域 に お け る 、 全 国 平 均 正 答 率 及 び 、 全 国 の 肯 定 的 回 答 合 計 値 を 基 準 と し た 場 合 の 、 本 校 の 様 子 。



《チャートの特徴》

数学を主体的に学習しようとする意欲に欠け、関心も高くない。したがって、日常的に数学に取り組む時間はとても低いように思える。その結果として、全体的に数学における基礎学力が定着しておらず、それが正答数に如実に表れている。全般的な「主体的な学び」は全国並みにあるのだから、数学的に物事をとらえ、考える習慣を普段から身につけさせたい。

《家庭・地域への働きかけ》

できること・できないこと、わかること・わからないことを本人が理解することからだとされる。そのためには、自ら学習する習慣が身につけている必要がある。まだその習慣が身につけていない生徒が多いため、授業のあった日を中心に必ず家庭で復習する時間を設けていただけるように協力をお願いしたい。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について

A層は微増したが、B層は3.7ポイント減少した。徐々に学力の二極化が進みつつあるため、考える時間を増やし、時間をかけ問題に取り組ませられるよう指導していく。単純な計算問題だけでなく、解答を出すまでの過程を大切にさせる姿勢を身につけさせたい。そのためには、まずは一人で考える時間を少なくとも5分間ほどは必ず取り、自分の知識を整理させるとともに、それをアウトプットする経験を積み重ねていく。類題を解かせることにより、それらがスムーズに行われるようにさせていきたい。時には、身の回りの事象を考えさせることにより、数学的に物事をとらえる習慣にも慣れさせていきたい。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

章の始めや終わりには、身近な事象を考えさせられるような教材の準備をしっかりとしていく。1問で1時間を使い切るくらいの教材を用意し、そこから章の目標や章の振り返りがきちんとできるように指導したい。ただし、ヒントは極力減らし、様々な知識を活用するよう誘導できるとよい。そのためには、教員自身がしっかりとビジョンを持ち、内容を精査し、必要な情報を与えられるよう研鑽に励むことが必須であることを忘れてはならない。

・基礎学力の保障

単元の終わりだけでなく、項目がひと段落したあたりで、基礎的な事項の確認テストを取り入れることによって、基礎学力の定着を図ったり、各自の理解不足の項目の発見に努める。時には、時間を割き、最低限必要な事項の定着を繰り返す行うことも必要だと思われる(放課後の再テスト、補習プリントなど)。中でもすべての基礎になる、各種計算はしっかりと定着させたい。場合によっては、放課後学習である「EDOスク」とも連携させていく。

・学習習慣の確立

まずは、毎日一定時間、家庭学習を行う習慣を身につけさせたい。残念ながら多くの生徒が未定着と思われる。同時に、塾に通っているから大丈夫だと思い込み、自主的な家庭学習を疎かにしている生徒も見受けられる。本人に明確な目的意識をもたせ、意欲的な取り組みを促したい。課題を出しても全く手をつけようとしない生徒がいるため、この時期の3年生として何をすべきかを真剣に振り返らせていく。

・AB層の育成

現行の授業形態(4人組学習)を上手に活用できていない。活発な意見交換や他者の発表を聞く機会をあまり推奨していない現状では、一人で学力を高めるには限界があるため、改善を図っていく。意識を学習に向かせられれば、考えを伝えあい、より深く考える場面にできる可能性も高いので、そのような声かけをしていく。より具体的な目標設定をし、その実現のために努力しようとする姿勢をもたせていく。